

第四回生徒生活調査報告：厚生部報

著者	厚生部幹事
雑誌名	龍南
巻	2 5 4
ページ	1 0 2 - 1 0 8
発行年	1944-06-15
URL	http://hdl.handle.net/2298/8588

民族の意志と美しい抒情とによつて綴られなければならない。而して短歌はその抒情精神——人間の魂の全面をゆり動かす大きな感動なくしては出来ないものである。歴史を回顧せよ、あの民族的抒情にみちた萬葉時代は國運隆々として發展の一路を辿つてゐたではないか。又一躍世界に我が國の存在を明らかにし、その檣舞臺にのり出した明治時代に於ては抒情精神は發刺として開花したのである。かくの如く、抒情精神は國家の運命をはかるバロメーターである。今や、日本は、米英撃滅、新しき道義的世界の創造へと邁進しつつあるのであるが、かかる時にこそ、抒情精神は烈火の如く國民のすべてに燃えあがらなければならない。前言した如く實に短歌はこの抒情精神に最も直接に關聯があり、日本民族の表出活動に最も適した詩形なのである。心ある龍南人諸兄よ、短歌によつて民族の抒情の洗練をうけ、その中で不斷に鍛へあげられた精神力を以て、進んで行かうではないか。

終りに班員の作品を掲載する。みんな拙いものであるが、諸兄の御鞭撻を乞ふ。

文二ノ二 石 九 公

目に見えて老いづき給ひし父母と枕を並めて今宵い寝むか

青若葉の照り流るるに戀ひゆきて光りのなかに、丘越えゆかむ

文二ノ三 下 田 道 生

風風げばオシロトシボの満ち充ちて初秋の日ざし和らげるかな

まつろはぬもの討ち伏せむ一億の民の息吹きを街にして感ず

文二ノ四 濱 田 義 道

夜に入りて未だも止まずなが雨のかそけき音をききて眠れり

並みよろふ外輪山に遠向ひしまらくものを言はざりにけり

文一ノ四 玉 利 勲

青葉風孤獨てふ語にこだはりし春のゆふべの愁ひさらになし
あたたかき山の斜面にたどりつき中勘助の「銀の匙」よみぬ

文一ノ四 木 庭 立 夫

バラを描くあまり静けき花なれば眞紅を加へてむこの日バラを描く
静けさがぐいぐい流轉してゆく蟬鳴いてゐるイタリヤ降服のラデオ

理二ノ一 劉 大 三 郎

いただきの豁間を白く残しつつ阿蘇めぐりこし雪雲はれぬ
ともすればくづれむとする心堪へ歌集にうつろなる眼を落しをり

理二ノ五 中 村 傳

吹きなりし風の靜かにをさまりて森の月影畑に落ちたり

理一ノ三 森 野 一 孝

花一輪見つつを居れば臥せる身の憂さをも忘るそのかほる色
校長の奉讀し給ふ大詔にたゞ默念と頭たれたり

厚生部報

第四回生徒生活調査報告

序

厚生部幹事

戦局日一日と苛烈の度を加へ吾々學生生活にもその波は強く押し加つて來た。昨十八年十二月吾等が友八十名決然起つて祖國の急に銃を執る。更に敵の物量を頼む反抗、マーシャル諸島を汚す、實に元寇以來の國難、祖國存亡の危機である、此の時に當り吾等學徒勤勞動員令下り卒業を眼前に控へたる文理三年生某方面に出動決定す。平穩なる學園にありてペンを取り、勤勞動員を又統執の日を待つ者、その覺悟を新たにし學徒の本分に最後迄邁進すべきは言ふ迄もない。

人生、それは一瞬一瞬の堆積である、一日一日を除いては人生は成立し得ない、此の意味に於て此の生活調査は吾々日常の生活、全龍南の動き、年の一端を採録し以て諸兄將來の指針たらしめんとするものである。

勿論かゝる調査はその性質上、外面的、皮相的たるを免れないされど内熟するものは必ず外に現ると云はるる如く、外的生活は內的のそれと密接なる關聯を有するものである、されば調査報告の一項目に詳細嚴密なる批判檢討を加へて戴きたい、そして明日の龍南を祖國を、より輝しきものに。

尙諸々の事情にて調査事項内容檢討統計方法研究その他多くの點に於て不完全なるを免れない、諸兄の御寛恕を乞ふ次第である。猶此の機會に厚生部の任務につき一言する、厚生部は生徒の生活指導、厚生方面に幾分にも力となればとて總務部の中に生れたものである、その具体的任務は此所に掲ぐる生活調査、下宿調査の他に菓子、パン類、木炭、豆炭類配給、下宿、家庭教師の御世話等である、配給方面に於ては昨年末頃迄は順調に行はれて來

たが現在時局の急迫と共に全く活躍の場を失つたかの觀がある、此れは吾々幹事として厚く御詫びしなければならぬ點であるが、此れ以上どうにも仕様が無いのである、家庭教師の方は既に相當の成立を見て居る、諸兄の中、御事情ある方は遠慮なく申し出ていたゞきたい。

調査人員及び調査時日

今回の調査人員總数は七百七十九名で全校生徒數の七十%弱である、前回に比し提出者の割合の減じたる點、殊に上級生に於てその著しきは遺憾である、尙本調査は十九年四月施行せるものである。

一、自家の所在地(圖一)

二、自家の職業(圖二)

依然として官公吏、會社員の多きは親や環境の教育に對し、かに大きい影響を及ぼすかも知ふに足る

三、出身中學(圖三)

中央の學校が益々地方の學校を壓倒してゆく傾向にあるは教育にたゞさばる要路の注目すべき點ではないかと考へられる

四、入學に要せし年限(圖四)

五、年齢(圖五)

平均して約一年低下した、此れは文科生の出陣に依るとも考へられるが全國的年若の歡迎の傾向の現れではあるまいか

六、現住所(圖六)

七、現在の健康(圖七)

自ら健康を判斷して強健とする者一七% 普通七七% 虛弱六% 第二、第三回と殆んど變化を認めず。

八、保健法(圖八)

九、眼鏡の有無(圖九)

十、睡眠時間(圖十)

十一、運動時間(圖十一)

十二、學習時間(圖十二)

第三回に比して平均半時間の増加をみた、しかし他校に比するに猶遜色がないでもないの觀がある。

十三、讀書時間(圖十三)

十四、感銘をうけたる書物(圖十四)

多いものを十數冊掲げる。

十五、愛讀書種類(圖十五)

文學、科學、歴史、隨筆が多數を占める、哲學がその色を漸次失ひつくあるは如何なる理由か、各自反省すべきではないか。

十六、好きな著者(圖十六)

文理共に大体同じ傾きだ、前回に比するに哲學者は凋落し、文學の擡頭が目覺しい。

十七、尊敬私淑せる人物(圖十七)

十八、憎み(圖十八)

前回との差異を認めず。

十九、趣味(圖十九)

二〇、映畫(圖二〇、二二)

一ヶ月の回数が前回よりやや増加の傾きにある。

圖一

所在地宅	文科	理科	計	順	所在地宅	文科	理科	計	順
熊本縣	二五	一五	二〇	一	靜岡縣	三	二〇	二三	一八
福岡縣	二六	一五	二五	二	德島縣	一	一	二	一九
大分縣	一六	一〇	二六	三	千葉縣	一	一	二	二〇
長崎縣	八	四〇	四八	四	三重縣	一	一	二	二一
大阪府	二二	一五	三六	五	埼玉縣	一	一	二	二二
東京府	一一	二二	三三	六	鳥取縣	一	一	二	二三
兵庫縣	三	一九	二二	七	島根縣	一	一	二	二四
宮崎縣	三	一八	二一	八	長野縣	一	一	二	二五
山口縣	五	二二	二六	九	山形縣	一	一	二	二六
鹿兒島縣	四	二二	二六	一〇	新潟縣	一	一	二	二七
佐賀縣	九	一一	二〇	一一	朝鮮	一	一	二	二八
廣島縣	二	一五	一七	一二	滿洲	一	一	二	二九
京都府	一	一五	一六	一三	支那	一	一	二	三〇
神奈川縣	一	一五	一六	一四	關東	一	一	二	三一
和歌山縣	一	一五	一六	一五	臺灣	一	一	二	三二
沖繩縣	一	一五	一六	一六	北海	一	一	二	三三

圖二

職業ノ	文科	理科	計	順	職業ノ	文科	理科	計	順
自家ノ業	一五	一五	二〇	一	自家ノ業	二	一五	一七	一
商社員	一五	一五	二〇	二	農業者	一	一五	一六	二
公務員	一五	一五	二〇	三	醫師	一	一五	一六	三
無官職	一五	一五	二〇	四	教育家	一	一五	一六	四

三三

[illegible]

四四

全 浪 五 四 人 卒 修 二 年 一 年	三七 一四八 一八五 一二三 三二八 四五一 三九 一五六 一九五	文科 理科 計
4 2 1 3	順	

圖五

年 齡	一六歲	一七歲	一八歲	一九歲	二〇歲
文科	一〇	三	五	六	五
理科	四〇	一〇七	一四二	一三五	一二〇
計	五〇五	一五九	一九七	二〇七	一九三
順	五	四	三	二	一
年 齡	二一歲	二二歲	二三歲	二六歲	
文科	四	〇	一	〇	
理科	四六	五	一	一	
計	五〇六	五七	二八	一	
順	六	七	八	九	

圖六

現住所	文科	理科	計順	現住所	文科	理科	計順
自宅	二六	二五	三六	合宿	二五	二五	四〇五
親戚	一〇	一六	一六	素人(下宿)	四	七	二七三
寮	四	一七	三五	素人(下宿)	八	三	二〇二
			一				二

圖七

現在ノ健康	文科	理科	計
強健	三七	八九	一二八
普通	一六	四七〇	五八六
虛弱	一〇	二二	三三

圖八

散	保健法
步	文科
一	理科
二	計
三	順
四	保健法
邵練習	文科
三	理科
四	計
五	順

運動	睡眠	榮養	冷水摩擦	早晨早起	登山
一〇	一八	三三	三三	〇七	〇〇
八四	二四	二〇	一八	二二	六六
二	五三	二三	二二	一九	六六
六	三	九	一〇	八	一二
規律生活	深呼吸	乾布摩擦	十分食ベ	ナルコトシ	
二七	一〇	一〇	一	四	四
二六	二四	二	九	八	八
三	六	三	二	一	二
六	一三	七	一	一	一

圖九

眼鏡	文科	理科	計
有(近視)	一〇六	三一三	四一九
有(亂視)	八三	二四五	三二八
有(遠視)	一七	一八	二五

圖一〇

睡眠時間	文科	理科	計	睡眠時間	文科	理科	計
四時間	〇	〇	〇	九時間	二〇	七	二七
五時間	二	二	四	十時間	一〇	三	一三
六時間	三	三	六	十一時間	一	〇	一
七時間	六	三	九	十二時間			
八時間	六	三	九				
	三	二	五				
	三	二	五				
	一	一	二				
	七	八	五				
	三	七	一				

圖十一

運動時間	文科	理科	計	運動時間	文科	理科	計
一時間	八四	七二	一五六	五時間	一	二	三
二時間	二六	二〇	四六	六時間	〇	一	一
三時間	一六	一五	三一	七時間			
四時間	六	三	九	八時間			

圖十二

學習時間	文科	理科	計	學習時間	文科	理科	計
一時間	三	三	六	五時間	九	四	一三
二時間	六	六	一二	六時間	二	二	四
三時間	六	六	一二	七時間	一	一	二
四時間	三	三	六	八時間	〇	一	一

圖十三

讀書時間	文科	理科	計	讀書時間	文科	理科	計
一時間	四七	三三	八〇	五時間	二	三	五
二時間	六九	二二	九一	六時間	一	一	二
三時間	六六	三七	一〇三	七時間	〇	一	一
四時間	一五	一五	三〇				
五時間	一〇	一〇	二〇				
六時間	三	三	六				

圖十四

感銘ヲ受ケタ書物名。

「こゝろ」(一二)、「罪ト罰」(一七)、「大義」(一三)、「出家トシノ弟子」(一二)、「愛ト認識トノ出發」(一〇)、「次郎物語」(一〇)、「狭キ門」(九)、「學生ニ與フ」(九)、「若キ哲學徒ノ手記」(八)、「復活」(八)、「三太郎ノ日記」(七)、「フアウスト」(六)、「郷愁記」(七)

圖十五

種類	愛讀書	文	科	理	科	計	順
文	一三七	三二六	四六三				
科	四	三五	三五五				
理	八四	七七	一六一				
科	九一	一三〇	二二				
隨筆	五三	二二九	二八二				
宗教	二五	四三	六八				
傳記	三八	一六五	二〇三				
藝術	四七	七〇	一一七				
其ノ他	一七	五六	七三				

圖十六

寺田寅彦	森歐外	夏目漱石	好キナ著者
一三三	四二	三〇	文科
三四	一三	一三三	理科
二	二七	一六三	計
トルストイ	谷崎潤一郎	阿部次郎	順
			好キナ著者
四〇	四	四	文科
三	五	五	理科
七九	五二	九八	計
			順

圖十七

島崎藤村	岡本かの子	和辻哲郎	ツルゲーネフ	芥川龍之介
二五	二	二	二〇	二
二	三	三	三	四
一七五	四	四	一四	六
五	一三	七	一四	一
山本有三	志賀直哉	武者小路實篤		
五	二	三		
二	二	四		
一七三	五	六		

圖十八

西郷隆盛	吉田松陰	野口英世	楠木正成	乃木希典	寺田寅彦	山岡鐵舟
三三	一三	〇	四	六	〇	〇
二〇	五七	二五	四	七	一五	一
一三	七〇	二五	三	六	一五	一
一	二	四	三	五	五	一
東條英機	父	楠木正行	宮本武藏	頼山陽	道元	
〇	三	〇	〇	一	三	
〇	六	八	二	三	三	
〇	九	〇	八	三	六	
〇	七	〇	八	一〇	九	

圖十九

自己ノ生活基	準ニツイテ	時代ノ動向ニ	勉學ニツイテ
八四	二二	六三	二六
二〇五	二五	九〇	二三
一	二	二	一四
家庭關係ニツ	イテ	人トノ關係ニ	ツイテ
二六	五	六	八
三七	九	九	四
五	三	三	六

圖十九

趣	味	文科	理科	計	順	趣	味	文科	理科	計	順
音	樂	四〇	二七	一〇八	二	園	藝	三	五	一七	十二
讀	書	三	八	一四	一	吟	咏	〇	〇	三	十三
散	步	三	六	九	三	模	型	〇	〇	五	十四
映	畫	二	四	六	六	天	文	〇	〇	九	十七
運	動	二	七	九	七	觀	劇	〇	〇	五	二十一
魚	釣	一	五	六	八	書	道	三	三	八	十九
繪	畫	九	二	一一	七	食	樂	五	二	一五	十五
寫	真	五	〇	五	九	詩	歌	二	〇	二	十八
登	山	〇	一	一	五	蒐	集	八	五	一三	二十二
圍	碁	四	一	五	十	睡	眠	六	二	八	二十
將	棋	〇	二	二	十六	思	索	九	七	一六	十八
旅	行	四	二	六	十三						

圖二十

映	畫	文科	理科	計	順	映	畫	文科	理科	計	順
ニユース	三	三	三	四	一	現代劇	劇	四	三	七	二
文化映畫	四	二	二	四	三	喜劇	劇	一	七	八	五
時代劇	三	一	一	二	四	悲劇	劇	一	二	三	六

圖二一

平均	映畫	平均	映畫	文科	理科	計	平均	映畫	文科	理科	計
回数	一月	回数	一月				回数	一月			
四	回	三	回	三	二	五	ナ	回	六	九	三
三	回	二	回	二	一	三	七	回	九	二	七
二	回	一	回	一	〇	二	以上	回	九	三	八
一	回	〇	回	〇	〇	一	シ	回	六	七	四